

第1回国際学部 卒業論文発表会



期日：2012年2月20日(月) 10:00～18:00

場所：文教大学湘南キャンパス 6号館

目次

・第一回国際学部卒業論文発表会実行委員長、 国際理解学科長、国際観光学科長 挨拶	P1
・会場図	P2
・タイムテーブル	P3～18
・第一回国際学部卒業論文発表会実行委員会紹介	P19
・感想記入用紙	別紙

1、挨拶

第一回国際学部卒業論文発表会実行委員長を務めさせていただきました林ゼミの塩田和也です。今回の卒論発表会は、それまで学科ごとに分かれて行っていた卒論発表会を学部全体で一堂に会して行うことにより、文教大学で学んだことや成長した姿を4年生全体で共有し、確認することを目的としています。今回は初めての試みということもあり、改善すべき点も多々あるかと思いますが、この発表会がこれから文教大学を代表する行事の一つとして、より有意義なものとなることを期待しています。

最後に、卒論発表会の企画・運営にご協力いただいた奥田先生、林先生、高井先生をはじめとする各ゼミの教授の方々、実行委員をはじめとする4年生の皆さんに感謝申し上げます。

第一回国際学部卒業論文発表会実行委員長 塩田和也

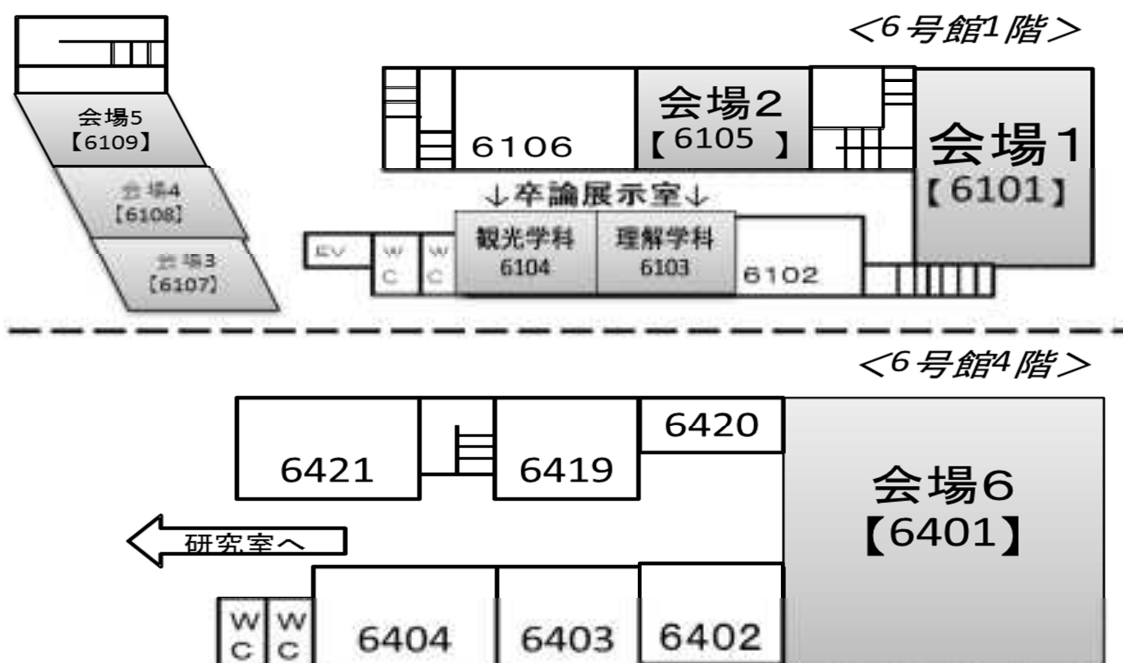
今年度4年生である皆さんは、国際学部の充実と発展を目指してカリキュラムが一新され、学科名称が国際理解と国際観光となって新たな出発をした最初の学年です。専門ゼミは学科の垣根を越えて選ぶことも可能となりました。そのような中で卒論発表会が学部全体で大々的に行われることは、国際学部の歴史に新たな1ページを刻む出来事です。準備や運営に奔走された学生さんや先生方のご尽力に感謝するとともに、発表会当日の活発な議論を大いに期待します。

国際理解学科長 塩澤泰子

卒業論文は、皆様の文教大学における4年間の研究活動の集大成であると同時に、世の中に対する「新しい価値・考え方」の提案です。これからの社会を担う人材は、これまでの常識を疑いながら常に新しいものを生み出す能力を備えていかなければなりません。卒業論文の制作過程はまさにその第一歩です。本日の卒業論文発表会では、皆様の新しい価値・考え方を通じて、これからの世界のあり方を一緒に考えてみたいと思います。

国際観光学科長 那須一貴

2、会場図



3、タイムテーブル

	会場1【6101】	会場2【6105】	会場3【6107】	会場4【6108】	会場5【6109】
パラレルセッション 【会場1～5】					
10:00 ～10:50	那須 一貴 ゼミナール	横川 潤 ゼミナール	藤井 美文 ゼミナール	塩澤 泰子 ゼミナール	生田 祐子 ゼミナール
10:55 ～11:45	足立 茂 ゼミナール	海津 ゆりえ ゼミナール	山脇 千賀子 ゼミナール	阿野 幸一 ゼミナール	Cary Duval Seminar
11:45 ～12:30	昼 休 み				
12:30 ～13:20	山口 一美 ゼミナール	高井 典子 ゼミナール	山田 修嗣 ゼミナール	中村 恭一 ゼミナール	小林 ひろみ ゼミナール
13:25 ～14:15	大森 徹 ゼミナール	宮原 辰夫 ゼミナール	林 薫 ゼミナール	奥田 孝晴 ゼミナール	山崎 裕子 ゼミナール
14:15 ～14:30	休 憩				
14:30 ～15:20	那須 幸雄 ゼミナール	小坂 勝昭 ゼミナール	椎野 信雄 ゼミナール	井上 由佳 ゼミナール (梨本加菜先生)	賈 強 ゼミナール
15:25 ～16:15	秋山 正人 ゼミナール	高師 昭南 ゼミナール		赤坂 雅裕 ゼミナール	金井 恵里可 ゼミナール
16:15 ～16:30	休 憩 ・ 移 動				
16:30 ～18:00	プレナリーセッション(共通論題) 【会場6 6401】				

パラレルセッション

会場1【6101】

那須一貴ゼミナール (10:00～10:50)

◎発表者

青柳奈央

◎発表テーマ

「商業施設における劇場型空間の集客・売上向上への有効性」

◎発表内容

1991 年をピークに市場規模が年々縮小傾向にある百貨店業界。苦戦を続ける百貨店にとって集客力を高めることは急務であるが、不況による消費者の低価格・実質志向が強まり、消費者はファストファッションやショッピングセンターに流れている。さらに、若者は「百貨店＝入りづらい・居づらい」といったマイナスイメージを持っているため、特別な目的がないと利用しない場所であり、若者の百貨店離れも進んでいる。そこで、百貨店と百貨店のライバルとなるアウトレットモールやファッションビルの 3 つの視点から、集客力と購買意欲を高める効果のある劇場型空間について考え、そこから若者を惹きつける百貨店づくりを提案する。

◎ゼミ紹介

みなさん、お馴染みの那須一貴ゼミナールです。私たちは那須一貴ゼミ第 1 期生となります。カリスマ的な存在の先生を筆頭に、集中とリラックスを併せ持つ愉快的な 17 人です。内容は主として、企業研究・ケーススタディ、それらを踏まえホテルでのインターンシップを行い、業務改善案を提案してきました。

毎回楽しい金曜 5 限を過ごしています。



足立茂ゼミナール (10:55～11:45)

◎発表者

榎本雄一郎

◎発表テーマ

「中小企業金融の円滑化について」

◎発表内容

中小企業の活性化は日本経済活性化の鍵となるといっても過言ではない。しかし、バブル崩壊後、中小企業の収益は長期的に低迷し、それに伴い、中小企業が本来担うべき役割は、十分に果たされているとは言いがたいのが現状である。本稿では、中小企業金融を次の 3 点から採り上げ、問題解決の道を探る。第一は中小企業が果たしてきた役割と中小企業金融の変遷、第二はバブル崩壊後の中小企業収益の長期低迷の背景とそれに伴って発生している貸し渋り問題や、政府の様々な中小企業保護政策の功罪などについて言及する。その上で、中小企業金融の円滑化を通じた中小企業活性化のため金融機関や政府等が果たすべき役割について考察する。

◎ゼミ紹介

私たち足立茂ゼミは、観光学科 2 人と理解学科 1 人合計 3 人で、経済に関わることを研究するゼミです。3 年生の時期には経済の本の内容を数章ずつ分けて発表することを中心に活動してきました。3 年生の夏には自分の卒論テーマに関わる本を読みまとめることも行いました。

4 年生の時には、発表と同時に卒論に向けてのテーマ・構成などを進めていきました。また、4 年生の秋セメスターには、日本銀行の見学を 3 年生と行き、紙幣の歴史や日銀の役割などをより深く知ることができました。

※授業で取り扱った本の一部です。興味のある方は是非読んでみてください。

- ・経済の仕組み / 大和総研(著)
- ・金融の現実と理論 / 谷内 満(著)
- ・日本経済の明日を読む 2011－「持続回復の試練」 / みずほ総合研究所(著)

山口一美ゼミナール (12 : 30～13 : 20)

◎発表者

五味愛美 吉田紀子

◎発表テーマ

「大学におけるホスピタリティ」

「観光ビジネスに従事する人の思いやり行動とマナーの関係性について」

◎発表内容

・大学におけるホスピタリティのあり方について考える。現在、少子化等の問題から大学は生き残りを賭けて競い合う状況にある。大学が学生を教育する役割を果たしつつ成長するためには、大学はどのようなホスピタリティを提供していけばよいのだろうか。本論文で大学におけるホスピタリティのありかたを検討する。

・観光業界に従事する人にとって思いやりの心と行動は必要不可欠である。思いやりの心を持っている人は思いやりの行動が取れると思われる。思いやりの行動のひとつとしてマナーがあげられるが、本論文では、観光ビジネスに従事する人に焦点を当て、思いやり行動とマナーの関係性について述べることにする。

◎ゼミ紹介～山口ゼミナール8期生の紹介～

☆フィールドワークに力を入れ、ホテル・エアライン・テーマパーク等に行き、実際のサービスを五感で感じ、研究課題である“ホスピタリティ マネジメント”を追求できた。

☆各自が目標を持ち、そこに向かって努力できる素敵な仲間達が集まっている。

☆親身に接してくれ、太陽のような存在の山口先生のご指導により、多くのことを学び成長できた。

魅力にあふれ、今後活かせる多くの糧を身につけることができた山口ゼミナールは最高です!!



大森徹ゼミナール (13 : 25～14 : 15)

◎発表者

木伏 春奈、濱田 祐貴

◎発表テーマ

「我が国における地方空港の運営問題提起と今後の在り方—空港設置過程と運営方法から—」

「茨城空港の首都圏第三空港としての利活用」

◎発表内容

日本には現在 99 の空港が存在するが、現在その多くの地方空港は赤字とされている。空港の財源は空港整備特別会計と呼ばれ、プール制を敷いているが、この存在こそが地方空港への問題意識を低下させた原因と考える。また、地域経済活性化の軸となりうる空港だからこそ、地域が主体となって空港活用のあり方について考えていく必要がある。そのため地域住民に対し、どのように空港という存在を定着させ、地域観光へと結び付けられるかが今後の地方空港の鍵を握る。不採算空港の量産時代に終止符を打った今、地方空港がなぜ赤字という逆風にさらされるようになったのか、また、今後どのように耐えていくべきかを本稿で論じる。(木伏)

本論文は、一昨年に自衛隊百里基地との供用開始された茨城空港を中心に、羽田・成田両空港と

航空棲み分けにより首都圏三空港を考察している。羽田が再国際化され、その影響で成田ではLCC 専用ターミナルが計画されている。茨城はLCC 向け空港として整備されており、成田に専用ターミナルができれば悪影響は免れない。初年度赤字見込みから黒字経営となった茨城空港。一地方空港としてではなく、今後は首都圏空港の選択肢に加えられる価値向上が必要である。他の地方空港の厳しい状況は本論文で触れていないが「空港は作りすぎで無駄」と考えるのではなく「作った空港をどう活かしていくのか」を考える機会となれればと思う。(濱田)

◎ゼミ紹介

私達大森ゼミは、笑いの絶えない元気いっぱいなゼミです!!!先生にはいつも迷惑をかけるほど元気なんです♪そして飛行機を見るのも乗るのも大好きなメンバーばかりです!!鉄道大好きっ子もいるけど(^^)そんな大森ゼミでは、エアラインについて勉強したので、飛行機についてなら何でも聞いて!と言いたいところですが…(^^;)

私たちの発表ぜひ楽しんでお聞きください。大森先生!大森ゼミのみんな!!大好きだよー!!!

那須幸雄ゼミナール (14 : 30～15 : 20)

◎発表者

力石彩夏、小野翔子

◎発表テーマ

「ホテル業界今後の展開」

「外食産業の現状と課題」

◎発表内容

「ホテル業界今後の展開」

東日本大震災により、ホテル業界を含む観光産業は多くの打撃を受けた。時代の変化と共に社会や顧客の宿泊施設に求めるニーズ多様が変化していく中で、ホテルというもの成り立ちから現状、今後更に顧客から求められるニーズを分析する。

「外食産業の現状と課題」

市場規模が減少している今日、企業間格差が生じているのが実情である。既存店の活性化をどのように行うかが利益を上げる一つのポイントとなり、その中で、いかに価格に影響を与えず、利益を出すのが今後の外食産業の課題だと考える。

◎ゼミ紹介

わたしたち那須幸雄ゼミは、国際理解学科 4 人、国際観光学科 4 人の 8 人のゼミです。「観光とホスピタリティ」をテーマにし、顧客満足 (CS) や、リッツカールトンホテルなどを題材に、従業員のサービス力について、勉強しています。実際にフォーシーズンズホテル椿山荘を訪問し、インタビューをさせて頂き、現場の方にお話も伺いました。

4 年生の後期には、視野を広げ、マーケティングや、社会で役立つビジネス用語についても先生の提案で勉強しました。

また、資生堂の工場で、製品の製造過程を見学させて頂いたり、3 年生の夏には江の島に合宿に行き、先生と共に楽しみました★

ゆっくりマイペースで、自由なメンバーと先生で、楽しいゼミナールです^^♪

秋山正人ゼミナール (15 : 25～16 : 15)

◎発表者

永野正樹、長谷川望美

◎発表テーマ

「一度は利用してみたいホテル&リピートしたいホテルの魅力とは」

「ホテルと旅館のサービスとホスピタリティの違いから今後の日本のサービス・ホスピタリティの展望について考察する」

◎発表内容

雑誌などで止まってみたいホテルランキングを目にしたいと思います。そのようなランキングに載るホテルは他のホテルと比べて何が違うのか? 様々な観点からクローズアップしていきます。また、リピートしたいホテルはサービス満足度高いのはもちろん、どのようなサービスで顧客を獲得しているのか探してみます。

日本には日本の文化や作法が反映されている旅館と西洋の雰囲気が漂うホテルがあります。お客様のニーズや用途、時代とともにサービス・ホスピタリティの特徴からこれからの宿泊産業がどのように変化していくのか、考察していこうと思います。

◎ゼミ紹介

私たちは、秋山正人先生の温かいご指導のもと、男子 2 人、女子 18 人皆で一つ一つの時間を大切に過ごしてきました。この時間を通して得たことは、「ホテルに関する知識」だけではなく、人と人とのコミュニケーションや、日本人としての意識など、この先に繋がる沢山の貴重な気づきと学びです。「ホテル」のゼミならではの、気遣いや思いやりに溢れた秋山ゼミは、気遣いや皆の素敵な笑顔でいっぱいです。



会場2【6105】

横川潤ゼミナール (10:00~10:50)

◎発表者

横川ゼミナール生全員

◎発表テーマ

「茅ヶ崎文教弁当
～地域・大学協同による地産地消推進の試み～」

◎発表内容

私達は、2010年9月中旬より“地産地消”“人と人とのつながり”“茅ヶ崎市・文教大学のイメージ向上”をテーマとして、茅ヶ崎市協力の下、地元の出店販売業者、農家と連携し、産官学協同のプロジェクトに取り組んできました。地域イベントや学会の活動を通じて、茅ヶ崎市の魅力を再認識し、地域の方との触れ合いの場を得ることができました。この成果を踏まえ、研究の経緯、茅ヶ崎市及び市の農業に関する基礎調査、経営戦略の立案、アイデア創出と実現化、アンケート調査と分析、イベントとその反省、そして一連の活動から得られた知見について、その内容を発表させていただきます。

◎ゼミ紹介

「食や観光」についてマーケティングの立場から企業や地域について分析、ディスカッションし、企業経営者、市長等に成果をプレゼンテーションします。横川先生を筆頭にチームワークが良く、個性豊かなゼミ生16名です。楽しく、おいしく食のあり方について学んでいます。明るく笑いが絶えない仲の良いゼミナールです。



海津ゆりえゼミナール (10:55~11:45)

◎発表者

中村友香、矢口翠

◎発表テーマ

「大学連携におけるエコミュージアムづくりに関する研究—文教大学と茅ヶ崎北部エコミュージアム構想—」

◎発表内容

私達の大学がある茅ヶ崎市北部地域には、里山などの豊かな自然や農地が多く残っている。3年次にエコツーリズムの視点から茅ヶ崎市北部地域の調査を行い、北部地域には豊かな自然が残る一方、過疎化や土地の荒廃が進み、問題視されているという現状を知った。調査を通し、茅ヶ崎市北部地域と大学が連携し大学が核となって地域づくりを行うことで、北部地域を活性化へつなげていけないかと考えた。本研究ではエコミュージアムの手法を取り入れ、北部地域全体を博物館と捉え、文教大学がコア施設となることによって、地域全体を活性化させていくことを目的とし、提案を行う。

◎ゼミ紹介

海津先生のご専門は「エコツーリズム」です。

エコツーリズムには、「宝探し」というキーワードが存在します。ここでいう「宝」とは、地域の自然・文化・歴史、あるいは、自然との関わりから生まれた知恵や文化のことを指します。海津ゼミでは、「宝」の掘り起しを行い、それをどのように観光や地域の活性化に繋げていくか考えます。

私たちは、茅ヶ崎をはじめ、様々な地域をフィールドに学び、シンポジウム等で発表してきました。海津ゼミで学ぶことで、視野が広がり、地域の見方が変わります。また、出会いも多く人との繋がりの大切さを実感できます。

最高の先生と、最高の仲間たちと学んだ時間は、一人ひとりの「宝」になっています。



高井典子ゼミナール (12 : 30～13 : 20)

◎発表者

小堀由貴、諸岡和樹

◎発表テーマ

「高齢者の旅行に対する意識と現状」
「茅ヶ崎における『海のイメージ』が与える観光への影響」

◎発表内容

旅に出ると、美味しい食事や景色、現地の人との交流など日常では得られない経験をするが、高齢者は何らかの障害を抱えていることが多い。足腰が弱い、糖尿病による食事制限等、問題は様々だが、現在は高齢者向けのツアーも増えている。本研究ではインタビューと文献調査から、高齢者の旅行に対する不安とバリアフリー旅行の現状を明らかにし、高齢でも障害があっても安心して参加できる旅行を提案する。筆者はライフセーバーとして茅ヶ崎の観光に携わる事を契機に「茅ヶ崎が夏に観光客が多く冬に少ないのは『海のイメージ』が強すぎるからではないか」という仮説をたて、この研究課題に取り組むことにした。本研究では、茅ヶ崎の観光に関する文献研究、茅ヶ崎市観光協会の方へのインタビュー及び茅ヶ崎市外的一般の方へのアンケート調査から、「茅ヶ崎の『海のイメージ』が与える観光への影響」を明らかにする。

◎ゼミ紹介

高井ゼミはトラベルをテーマにしたゼミです。3年次前半は文献講読を中心に観光学の理論について学びました。夏合宿では、グループ対抗の企画コンペ行い、相互評価で最も得点の高かった「温泉街・熱海の再生」をテーマとしたツアーがベストツアーに選ばれ、9月に全員で熱海へのツアーに参加しました。現地では、倒産した旅館の社長さんからご講義をいただき、日本の観光産業の光と影について考えました。3年次後半はインバウンド・ツアーの企画をグループプロジェクトとして行いました。鎌倉と東京のチームに分かれ、現地視察を行い、外国人観光客へのインタビュー調査から、より魅力的なインバウンド・ツアーの開発について議論しました。



宮原辰夫ゼミナール (13 : 25～14 : 15)

◎発表者

金子美和、小玉恵里奈

◎発表テーマ

「パラオにおける持続可能な観光の可能性」

◎発表内容

太平洋には25,000もの島があり、ハワイ諸島とイースター島とニュージーランドを結んでできる大きな三角形の中でポリネシア、ミクロネシア、メラネシアにグループ分けされる。ハワイをはじめ、グアム、バリ、サイパン、フィジーなど多くの島々がリゾート開発、観光地化される中、パラオは多くの自然を残し、年間3万人もの日本人観光客が訪れている。自然環境の保全と観光を結びつけ、いかにビジネスとして発展させていくか、パラオにおける持続可能な観光の今後の展開や課題について考察する。

◎ゼミ紹介



私たち宮原ゼミは、宮原先生を中心に個性的なメンバーが集まっています。統一したテーマはなく、一人一人が興味のあるテーマを研究し、年に数回あるゼミ合宿では先生の自宅で暖炉を囲み、将来について熱く語ります。

小坂勝昭ゼミナール (14 : 30～15 : 20)

◎発表者

吉田江里 須藤孝美

◎発表テーマ

「地下鉄と地域開発」

「地域が主体となる『地域旅』について」

◎発表内容

「地下鉄から街づくりを考える」

多くの鉄道会社では、鉄道輸送サービスだけでなく、街や駅などの地域開発事業に力を入れている。駅を中心に、街をつくり、駅は、ある別の目的地に行くために利用するためだけではなく、駅自体が目的地になってその地域が発展しているという例が都内では、多く見られることに関心を抱いた。

これを私の地元、群馬県でも活かさないかと考えた。同県は、一人一台、自動車を所有しないと、生活が成り立たない。それゆえ、鉄道の駅は未だ目的地としての機能を持っていない。駅の機能をより充実させることで、新たな街づくりができるのではないかと考えた。

「地域が主体となる『地域旅』について」

学びの中で、地域を立たせる観光や地域住民を巻き込み地域資源を活かしていくという持続可能な観光に関心を持った。その中でエコツー

リズムに取り組む地域の事例を挙げることで地域活性化の在り方について考察し、そして、地域・住民・観光客が共栄していく持続可能な観光の可能性を提示する。

◎ゼミ紹介



みんな、それぞれ個性が強く、自分のやりたい分野を調べ、ゼミの時間に発表しています。

写真は、先輩方と懇親会を開いた時のものです。

高師昭南ゼミナール (15 : 25～16 : 15)

◎発表者

仲嶺あんじ、佐々木悠里、湯澤沙貴、小林恭平、太田和温子、大石剛傾

◎発表テーマ

「生きられる」空間の研究

◎発表内容

スピード競争激化による過ストレスの孤独社会に意味を持つであろう空間のデザイン研究として、体験を通して感じた「生きられる」空間とそれを成り立たせている仕掛けの観察報告である。なお「生きられる」空間とはここでは、ほっとできる、心広やかになる、他者を受け入れられる気持ちにつながる空間と考えている。

1 人は一人では生きられない～気配に支えられて～

2 遊歩道～視覚依存を離れて、～呼吸する五感～

3 縁側一間～ま、あいだ、記憶のあわい～

4 ケアーの空間

～受け入れられる抵抗と生きるということ～

5 空間の魅力 「混沌に見せる」

6 空間の魅力 「音楽を楽しむ、自由を楽しむ」

◎ゼミ紹介

総勢 15 名から成る大所帯のゼミです。私たちのゼミのテーマは「観察」です。もしかしたら普段見逃しがちなものを具体的に観察するために、観察対象の空間があるところに足を運んでいます。

担当教員である高師先生は今年度で退職されるのでこの発表が餞になれば幸いです。

会場3【6107】

藤井美文ゼミナール（10：00～10：50）

◎発表者

市丸源太、小寺由梨、関口綾子、田村知聖、津城友哉

◎発表テーマ

『震災と市民社会』

◎発表内容

藤井ゼミでは、未曾有のできごとである東日本大震災と福島原発の重大事故を卒論テーマとして取り上げないで済ますことはできないと考えました。新聞記事データから震災と福島原子力発電所事故による人々への影響や価値観・ライフスタイルの見直しや変化について研究・調査しました。この結果から言えることは、震災・原発事故が私たちのライフスタイルや価値観を見直す大きなきっかけに結びついているということです。

環境や健康を意識した個人的な行動や社会的な行動の変化もみられました。今後自らが望ましい社会を再考し、自分達で意思決定し、選択していくことが課題になっていくと考えています。

◎ゼミ紹介



藤井先生を筆頭にゆる～く、明るくまじめに勉強しています！私たちゼミ生を一言で表すと『マイペース』、そんな感じです。

山脇千賀子ゼミナール（10：55～11：45）

◎発表者

新井裕美恵、牛渡香菜、川上千亜希、工藤悠貴、小林優介、佐藤祐樹、杉本光洋、田中ひかり、趙曉恩、前田廣太、矢地由布子、堀江翔太

◎発表テーマ

「ステレオタイプを超えて世界の現実とどう向き合うか」

◎発表内容

ゼミ生各々の持つ研究テーマとしては多様な問題を扱いながらも、みんなが共通の問題意識をもつことに気づきました。それは、一般には当たり前と捉えられている世界像を、視点を変えて見つめることで、ステレオタイプを超えた現実とどう向き合っていくかを問う姿勢です。既存の事実は狭く、制限された見方で認識されていることがしばしばあります。無関心のため、問い直すべき問題が放置されている場合も少なくありません。ゼミ生たちは、各々の関心に基づいて、こうしたステレオタイプを脱却し、ステレオタイプに捉われない見方＝新しい世界像

を提案することを目指しました。そのために必要なステップは私たちを取り巻く情報環境の見直しです。卒業研究を通して、情報とどのように関わり、それによって私たちの世界への向き合い方をどう変えていくべきかを模索したプロセスを提示する予定です。

◎ゼミ紹介

山脇先生を筆頭に、個人個人の個性がかなり強めです（笑）まとまるときはまとまり、散るときは速さはそつけないですが、キャラが濃いめの楽しい仲間が集まったゼミです。



山田修嗣ゼミナール (12 : 30～13 : 20)

◎発表者

佐藤未来、津城友哉

◎発表テーマ

「環境意識向上のための自然教育の可能性」
「茅ヶ崎市における市民討議会とワークショップによる参加手法組み合わせへの可能性」

◎発表内容

環境問題が社会にとって深刻な問題とされている今日において、環境教育は持続可能な社会の構築において有効だと唱えられてきた。どのような点が有効であり、環境教育の問題点の解決にはどういう対処が必要になるのかを論じていく。

地域では行政・企業・市民による協働が注目され、市民参加が叫ばれている。だが、近年注目されているワークショップには偏った人々しか集まらない。その問題を市民討議会による解決とその限界を論じていく。

◎ゼミ紹介

山田ゼミでは、先生と生徒が和やかなムードで、美しい話や夢のある話をしています。そこには、様々なお菓子や先生が入れてくれる美味しい紅茶やコーヒーがあり、時には楽しく、時には真面目にその話を深めています。



林薫ゼミナール (13 : 25～14 : 15)

◎発表者

小林広美、キムムンソン

◎発表テーマ

「ボランティアの再定義」

◎発表内容

東日本大震災を通じて最近ボランティアに注目が集まるようになった。ボランティア参加者は何を目的にボランティアに参加しているのだろうか。これを知ることは「新しい公共」の中でボランティア活動を生かしていくために極めて重要だと考える。本ゼミでは、アンケートとその分析を通じてボランティア参加者の意識とその変化を把握、検証することを試みた。また、韓国では学校教育においてボランティアが義務化されているが多くの問題が生じている。ボランティアの義務化はいったいどのような副作用を持つのか。これらを通じてボランティアの再定義を行いつつ、真の自発的なボランティア(ボランティアリズム)は何かを考えたい。

◎ゼミ紹介

林ゼミは主に「開発」について学ぶゼミで、先生のハイセンス!?なジョークを交えながら普段は和気あいあいと、やるときはビシッとやるゼミです。3年の夏にはスタディーツアーで途上国へ行き現場を学び、学祭ではスタツア発表会を行っています。他にも、他大学との交流会や先生宅でのカレーパーティーなどイベント盛りだくさんの楽しいゼミです!!



椎野信雄ゼミナール (14 : 30～15 : 20)

◎発表者

大坪咲子・小野 雄貴・柴野綾香・日岐 敏史・溝越祥子

◎発表テーマ

「性別」概念を超える人間関係の社会的条件についての考察

◎発表内容

1980年代以降ジェンダー研究では、性別 (sex) とジェンダー (gender) の二元論を超え、生物学性差 (SEX) も社会的に構築されたジェンダーと見なし、性別 (sex) が特定の社会の知識の枠組みの下、歴史的实践の結果として成立したものと考えられるようになってきた。「性別」を女か男に二分する分類方法は普遍的なものではなく、近代資本主義社会・国民国家・近代家族で成立する性別役割分業、およびそれらを支える社会制度や生活様式と不可分に結びついていたのだ。女や男といった性別分類は社会で起きている出来事や現象と人々の使用する言葉の網の目の中で結びつき「ひとつの組織化された現実」となっていく。女や男といった「性別概念」を超えた人間関係の社会的条件について「市民」をキーワードにし考察した。

◎ゼミ紹介…写真左から 柴野綾香・大坪咲子・椎野信雄・小野雄貴・日岐敏史・溝越祥子



会場 4 【6108】

塩澤泰子ゼミナール (10 : 00～10 : 50)

◎発表者

青木佳奈子、米川綾香

◎発表テーマ

『生きる力』を養う教育
「動物による子どもの心の育成」

◎発表内容

This paper reports the effects of animals given to children. In recent years animals are considered to be indispensable in non-verbal communication of children by a study; pet breeding has good influence on social development and emotional development of children. Therefore Animal Assisted Education (AAE) begins to attract attention in Japan. The purpose of AAE is (1) non-verbal communication in terms of respect for life and consideration is developed (2) interest in animals will improve learning.

This paper intends to clarify what kind of effect there is in communication with dogs for the growth of the children. In addition, this paper examined usefulness of AAE citing an example in a school dog “buddy”. She gives children so many smiles and pleasure of going to school. Moreover she teaches animal’s warmth and preciousness of life. There is only this instance of AAE in Japan yet. However, “school dog” may spread as studies and instances increasing. In future school education, realization of introduction of AAE is expected.

◎ゼミ紹介

様々な活動を通じ、英語表現の向上やコミュニケーション力を養っています。メインイベントとして12月にOCFに出て、オリジナルの英語劇を披露しています!普段は、マイペースにのんびりと!だけど、やるときはやる!という感じです。少し刺激的でアットホームな家族のような雰囲気を持つゼミです!

阿野幸一ゼミナール (10 : 55～11 : 45)

◎発表者

海老澤佑夏、久我望、竹中成美、長谷川舞、浜野瑠香、細川めぐみ

◎発表テーマ

「生徒を惹きつける英語の授業とは
～教師に求められるもの～」

◎発表内容

私たちは小・中・高等学校で生徒を惹きつける授業を行っているという評判の先生方の授業を実際に見学し、ビデオに撮影してきた。それら进行分析することにより、先生方にいくつかの共通点を見出すことができた。これらの共通点と、それをどう活かしていけば、児童生徒が惹きこまれるような英語の授業が出来るかということについて発表する。

これまでどのような授業を受けてきましたか？今まで受けてきたものとは違う授業を知ることができるかもしれませんよ★

◎ゼミ紹介★阿野ゼミナール4期生★

わたしたちのとにかく忙しい毎日の一部をご紹介



先生の家は私たちの第二の家♪

3年生は韓国で7
レゼン★焼肉、サム
ゲタン最高!!! しゃ
いエステもしました!
4年生は香港で7
レゼン★夜景、北京
ダック最高!!!

先生カッコイイ!!
私たちのアイドルです♪
先生大好き!!
キャ～★★★

中村恭一ゼミナール (12 : 30～13 : 20)

◎発表者

樋博紀、石川結麻

◎発表テーマ

「平和で安全な生活の構築」

◎発表内容

まず「紛争後の平和構築における教育復興のあり方」というテーマのもと、紛争後の教育復興の特徴や教育的活動を推進しているUNESCOとUNICEFの活動について述べ、今後の支援のあり方について考察します。

次に「世界の子ども兵をなくすには — Lord's Resistance Army の子ども兵を通して考察する」というテーマのもと、筆者が大学2年の時に訪れた東アフリカのウガンダ共和国の反政府組織、Lord's Resistance Army の子ども兵達の経験や現在の状況を踏まえて、世界の子ども兵問題の根本に横たわっている問題を探り、継続して行われている支援方法を見返し、現状打開のために考えられる方法は何を考察します。

この発表を機に、紛争後の教育復興や子ども兵問題に対する関心が高まれば幸いです。

◎ゼミ紹介

中村ゼミは、座学では学ぶことのできないことを数多く経験してきました。コソボでのボランティア活動やNY研修等の海外での活動、東日本大震災に対する支援活動、またコソボ大使館や国際機関、JICA等主催のイベントやシンポジウムへの参加等、様々な活動を通してそれぞれのメンバーが国際社会で生きていくための感覚を養うとともに、新たな価値観を構築することができました。

優しく時に厳しい中村先生のもと、マイペースでのびのび、そして「やるときはやる!」というけじめをしっかりとつけられる、それが中村ゼミの雰囲気です。



奥田孝晴ゼミナール (13 : 25～14 : 15)

◎発表者

按田真奈美、信夫茉莉

◎発表テーマ

『「貧困国」における教育の可能性』

◎発表内容

途上国では「教育」の支援や援助が不可欠である。しかし、先進国と発展途上国では、その「教育」の持つ意味や考え方は異なると考えられる。エンタイトルメント(権原)の有無から、先進国(日本)と発展途上国(タンザニア、バングラデシュ)における「教育」現状を比較し、国際協力や開発から発生する教育の矛盾を見出す。

今回の発表では、これからの「教育」のあり方を再考するとともに、いかにして「貧困国」における教育のエンタイトルメントを獲得させるかについて考察する。

◎ゼミ紹介



奥田ゼミは文献講読を行う真面目なゼミです。文献講読では、1つの話題から様々な方向へ議論が盛り上がるので、それぞれの興味関心に応じて議論が白熱することもあります。そんなゼミ生は主体性が強いですが、やる時にはやります!

先生は寂しがりやで「かまってちゃん」なので、外部から見るととてもギャップがあります。しかし、とても面倒見が良い人ですので、厳格なイメージをいい意味で裏切ってくれます。

そんな奥田先生の下に集まったのが、奥田ゼミ生です。

井上由佳ゼミナール(代行：梨本加菜先生) (14 : 30～15 : 20)

◎発表者

海野原 歩、後藤 悠

◎発表テーマ

「アートセラピーを取り入れた生活」(海野原)
「チルドレンズ・ミュージアムが子供に与える影響」(後藤)

◎発表内容

・アートセラピーとは芸術活動を通して自身の抱える問題や自己について探求する心理療法である。欧米を中心に活用を広げているが、日本ではまだその認知度が低い。この研究を通し、セラピーにアートを使用する効果や、アートが人にもたらす影響を知り、アートが更に身近で意味のある存在になるための可能性を模索する。(海野原)

・従来型のミュージアムは展示品を見るだけであり、子供にとっては大人しくするべき場所であった。しかし最近ハンズ・オン展示装置と呼ばれる体験型の展示スタイルを取り入れ、子供が楽しく学べる「チルドレンズ・ミュージアム」が増えている。この展示装置が見学者にとってどのような効果を及ぼすのか考察する。(後藤)

◎ゼミ紹介

私たちのゼミでは、文化施設とコミュニケーションをテーマとしており、「博物館ツアー」と題し、約2カ月に1度、あらかじめゼミ内で計画した博物館へ行って、その博物館を見学し、堪能するといったものを開催しています!!

下に載せた集合写真のぬいぐるみは、博物館ツアーへ行ったときに買ったもので、今もゼミ室に飾ってあります!

それと、赤ちゃんを抱いている先生は、1年前までこのゼミの先生で、今は育児休暇中の井上先生です!



赤坂雅裕ゼミナール (15 : 25～16 : 15)

◎発表者

野村亮介、二見文貴

◎発表テーマ

「親子の距離感についての考察」

「学校に行けない子どもたち～カンボジアの教育事情～」

◎発表内容

近年、家庭における問題が山積みしている。特に、親に問題があるように感じる。家庭教育の基盤とも言える親が現代において、子どもとどう関わり、育ていくべきか「親子の距離感」を再認識することが必要だと考えた。

学校へ行きたくても行くことのできない子どもたちがいるという現実を知り、カンボジアへ実際に行ったことをきっかけにカンボジアの教育について考えてみた。

カンボジアで出会った子どもたちの抱える問題というものを様々な視点から考えて、彼らのためにできることは何かを考えてみる。

◎ゼミ紹介

赤坂先生と一緒に様々な活動を通して「教育学」を学んでいます。江の島合宿やクリスマスパーティーをゼミ生主体となって行い、学年やゼミの枠を超えて交流をしながら楽しく活動しています。また、茅ヶ崎市の学校への学習支援活動の参加、特別支援学級の合唱練習、サッカー部指導等、ゼミ生の個性を生かして地域との交流をしたり、カンボジアスタディーツアーで現地の子供達と触れ合う活動の実践を通したりと、様々な経験の中でゼミ生それぞれの「教育学」を学んでいます。



会場5 【6109】

生田祐子ゼミナール (10 : 00～10 : 50)

◎発表者

千田綾香(Ayaka CHIDA)、
姜 少永(Soyoung KANG)

◎発表テーマ

「日本人英語学習者の英語発音モデル:言語アイデンティティからの考察”The English Pronunciation Model for Japanese from the Perspective of language Identity”」(千田)

「在日コリアンにとっての民族的アイデンティティ:在日コリアン、日本人ですか?それとも韓国・朝鮮人ですか?”Ethnic Identity for the Resident Korean in Japan. Is the Resident Korean Japanese or Korean?”」(姜)

◎発表内容

私は岩手県出身で、自分の方言にコンプレックスがあった。また、英語に関しては、私自身の英語の発音が日本語的で恥ずかしいと思っていたので、人前で話すことに抵抗があった。しかし、生田・高橋ゼミでWorld Englishの概念について学び、世界には多様な英語が存在することを知り、自分自身と言葉について再認識できた。このことがきっかけとなり、日本人学習者がモデルとすべき英語発音について言語アイデンティティの観点から考えてみた。(千田)

私は2002年FIFAワールドカップがあった年に初めて日本を訪問し、日本の高校生との国際交流会に参加しました。その後、日本への留学を決意し、今年で7年目になります。この間に在日コリアンの方達と知り合う機会があり、彼ら・彼女らの民族アイデンティティに興味を持ち、日本の来たきっかけや国籍の意味することを調べました。論文は文献調査とインタビュー手法を用いて質的研究としてまとめました。(姜)

◎ゼミ紹介

生田ゼミの共通テーマは「国際共通言語としての英語の社会的役割」ですが、国際学で学んだ最も関心のあるテーマを、自由に卒業研究として選ぶことができます。研究結果を英語でも世界に発信していきますので、一部は英語で発表します。今回は、全員が「壮大」なテーマを選びました。以下、発表者以外の研究紹介です。大木孝太「日本における英語力と所得の関係性」近藤恵太「ユーモアと笑い:ストレスフルな現代社会へのコーピングとしての役割」古澤貴紀「日本の死刑制度の是非について」松館咲「英語学習における動機付け研究」中山亜美「ニューヨーク多民族社会に関する一考察」

Cary Duval seminar (10 : 55～11 : 45)

◎発表者

奥山美花、松尾穂奈美

◎発表テーマ

『ノリ』の文化から分かるコミュニケーションスタイルの変容～若者語の実用性～

◎発表内容

言葉とはコミュニケーションを取るのに最も利用される手段である。そのため同じ単語でも地域や職業によって異なる言い方をされている。その中の一つが「若者語」である。「だるい」「まじ」など主に 10 代～30 代の人々が使用している言葉だ。テレビでも当たり前のように話されているため一般的に広まりつつある。しかし一方では、批判的な意見が挙がっていることも事実である。

若者語とは何なのか。現代人はこの言葉を使い、どのようにコミュニケーションを図るのだろうか。私は若者語を掘り下げることでこの言葉の性質を明確にしたい。また、この言葉が持つ「ノリの文化」を新たな日本のコミュニケーションスタイルとして確立していきたい。

◎ゼミ紹介

私達は、英語を通じてコミュニケーションや多文化社会のあり方について研究しています。少人数ですが、それぞれの個性をだし、様々な意見が出るので毎日新たな観点を学ぶことができます。和気あいあいとしていて皆仲良くしています。



小林ひろみゼミナール (12 : 30～13 : 20)

◎発表者

徳永麻未、原沢圭子

◎発表テーマ

- 1 「音楽療法とその効能」(徳永)
- 2 「幸せの追及」(原沢)

◎発表内容

1 科学が発達した今でも、私たちはなぜ音楽を楽しみと思うのかも科学的に説明できない。音楽を聴くことで、ヒトにどのような影響があるのか。脳内物質の分泌とそれに伴う感情の変化や痛みへの耐性といった点から実用的に音楽がどのように使われているのかを紹介する。

2 「幸せ」とはどのような要因が関係しているのか。それは幸せとは考え方、性格、価値観など主観的な要素が強く、簡単に定義することはできないが、米国の世論調査機関ギャラップによる世界で一番幸せな国家ランキングの上位の北欧諸国や、GNH を国の方針としているブータンなどから共通点を探し出した。幸せを支えているものは何かを考察する。

◎ゼミ紹介

私たちのゼミを一言で表現すると「自由」です！アメリカ研究を念頭に置いて活動しています。アメリカと言えば「自由の国」ですね。その精神を受け継いでいるのかな。「自由」と言うと聞こえは良いですが、自由とバラバラって紙一重ですよ（笑）

卒論のテーマも、完全に自由です。それぞれが自分の興味のあることについて研究できました。本当に様々なテーマがあります。卒論における世界観の広さは小林ゼミが No. 1 だと思います！先生の優しさも No. 1 だ！

今年で小林ゼミは終了します。先生今まで本当にお疲れ様でした！We are really thankful!

山崎裕子ゼミナール (13 : 25～14 : 15)

◎発表者

木山 瑠美

◎発表テーマ

憂鬱の中に住む詩人 萩原朔太郎

◎発表内容

萩原朔太郎は、明治 19 年群馬県前橋市生まれの詩人である。彼は人生に対する憂いの気持ちとも言える特異な感覚を伴った詩作活動により、作品を執筆し名を馳せた人物で、彼の作品は現在に至るまで高く評価されている。朔太郎の作品と私との出会いは高等学校の国語の教科書にあり、私は彼の描く詩作世界のとりことなった。上記の発表テーマにしたのは、朔太郎の作品で度々繰り返される物憂げな言葉たちの存在する理由、それに伴う官能的であり陰鬱なリズム、語感、雰囲気を探るためである。この発表や質疑応答により、萩原朔太郎についての理解を私自身が今まで以上に深めることが出来るとともに、参加者の皆様に興味を持って頂けたらと思う。

◎ゼミ紹介

今年度の山崎ゼミナールⅣは、ゼミ生が私人という異色の構成となっている。

その理由は、入学当初から卒論は朔太郎について書きたいと漠然と思っていた私の考えを理解して下さったのが山崎先生だったからである。他のゼミ生がいないにもかかわらず何とか山崎ゼミに入りたいという思いを汲んで頂き今日に至る。他の学生にはマンツーマンのゼミは異色に映るだろうが、逆に私にとっては、複数名で行うゼミは特異に感じられる。前期は哲学の初歩について学び、後期は卒論一色であった。学習面での甘えを認めない山崎先生のもとでのゼミは非常に大変であったが、それを経て得たことも大きい。文章を書くのが好きでも正しい文章の書き方を理解していなかった私にとって、毎週一対一で行われる文章指導は大変めになった。ゼミの雰囲気は常に厳しく時に和やかな、毎回程よい緊張感を持って挑むという風である。常に厳しくとは言っても、それは時により変わる。ゼミと直接には関係しない内容の話が盛り上がり、終了時間ぎりぎりにゼミ内容に移るという可笑しいこともあった。未だに文章は大学生とは思えない稚拙さではあるが、ゼミで学んだ知識を生かして、今後も切磋琢磨していきたいと思う。

賈強ゼミナール (14 : 30～15 : 20)

◎発表者

ギ カ

◎発表テーマ

「日本の少子化問題」

◎発表内容

現在日本の社会におけるさまざまな社会問題が起きている。例えば、格差社会、少子化、医療問題などがあります。今回のレポート日本の少子化問題について書きたいと思います。日本の少子化問題は、1975年ごろからゆるやかに始まり、90年代ごろから大きく進行した“未婚化”“晩婚化”が主因です。日本では結婚してから出産するのが一般的なため、婚姻数の減少が直接的に出生数の減少につながってしまいました。また、女性には出産可能年齢がありますので、晩婚化も当然、出生数の低下に影響しています。近年、人口の少子高齢化が激しく進行してきましたが、2005年を境に、少子化高齢人口減少社会に突入しました。

◎ゼミ紹介

ゼミのテーマは「中国の民族音楽」。私達は

中国人でありながら、中国の民族音楽についてあれこれ言えるほど詳しくないです。ゼミを通じ楽器も曲も勉強になりました。

長い伝統と文化に育まれた民族音楽で、アジアの国々ではその多様な歴史と伝統から生まれた独特の楽器、リズム、音色が民衆の生活に根づいています。中国の民族音楽(伝統音楽)は、長い歴史における民族の興亡、イスラム圏やヨーロッパとの東西交流の中で独特の発展を遂げてきました。

民族楽団のパートは、ほかの国のオーケストラや、ブラスバンドとは少し異なり、オーケストラは、弦楽器が特に区別されていません。弦楽器が2つにわかれています。そして、逆に、オーケストラに見られます、木琴や金管の区別がないところが、中国民族楽団パートの独特さである。ゼミでは上海や蘇州といった江南地方の音楽である江南絲竹「しちく」(Jiangnan Sizhu)主に聞いて話します。

ゼミ生はオウ リン、ショウ サンサンと私ギカ三人で構成されます。

金井ゼミナール（15：25～16：15）

◎発表者 板倉南、小松春香 ◎発表テーマ 「機能不全家族」 「人権宣言」 ◎発表内容 機能不全家族とは、「子育て」、「団らん」、「地域との関わり」といった本来家庭に存在すべき機能が、健全に機能していない家庭の問題を指す。こういった機能不全家族内に育った子供は、機能不全な考え方が一般的であると認識し成長しやすく、幼少期の重要な人格形成において愛情を得る機会が非常に乏しくなり、自己愛・自尊心・他社への共感、他者の苦しみに対する理解等にかけた人間にもなりやすい。そして、成人してからも、歪んだ思考により社会適合ができにくく問題を引き起こす場合がある。こうした機能不全家族が生じてしまう背景とはどういったものなのか。また、そういった環境を改善するためにはどうしたらいいのかを述べる。	◎ゼミ紹介 私たち金井ゼミナールは各々が興味を持ったテーマについて法律に関連付けて研究を続けています。法律というと難しいテーマのように感じますが、全くそんなことはなく、近年話題となっている社会問題などを法律に関連付け、問題点、改善点などを議論し、それについてゼミ生全員が疑問に思ったこと、気になったことを積極的に発言し、金井先生を中心として楽しく法律を学んでいます。 ゼミの特徴を一言で表すなら「マイペース」。議論の途中で話が大きく逸れたりするなど、全体的にのんびりした人が多いゼミですが、全員何事にもやる時はとことん集中して取り組みます。そんな人々が集まる、常に笑いの絶えない楽しいゼミです。
--	---

プレナリーセッション（共通論題） 16:30～18:00

会場 6 【6401】

<テーマ>

「価値観の多様性～世界から見た日本、日本から見た世界～」

<パネリスト>

学生・・・ 志賀 あゆみ（理解）
日岐 敏史（理解）
植田 圭介（観光）
美山 佑介（観光）

教授・・・奥田 孝晴
海津 ゆりえ
（山脇 千賀子）

<座席表>

1～3年生が後ろに座るので、4年生はゼミごとに座席表に従い、前から詰めて着席してください。

ホワイトボード																											
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7				
塩沢ゼミ		小林ゼミ				1	那須(貴)ゼミ				山口ゼミ				1	横川ゼミ		金井ゼミ									
						2																					
						3																					
						4																					
秋山ゼミ						5	高師ゼミ				林ゼミ				5	山脇ゼミ		梨本ゼミ									
						6																					
						7																					
那須(幸)ゼミ		奥田ゼミ				8	大森ゼミ				高井ゼミ				8	小坂ゼミ		デュバルゼミ									
						9																					
海津ゼミ		山田ゼミ		10	生田ゼミ										藤井ゼミ		椎野ゼミ		10	中村ゼミ		阿野ゼミ					
				11																							
									12	足立ゼミ									賈強ゼミ		12	赤坂ゼミ		山崎ゼミ			
									13																		

4、 第一回国際学部卒業論文発表会実行委員会紹介



第1回国際学部卒業論文発表会実行委員会

実行委員長	塩田 和也
副実行委員長	久我 望
幹事	按田 真奈美、小林 一宏、根本 雅史、諸岡 和樹
看板・掲示	市丸 源太、稲月 脩、木山 瑠美、須賀 淳、津城 友哉
共通論題司会者	小林 優介、近藤 恵太
アシスタント	奥山 美花、勝又 隆一
卒業論文展示	王 琳、入江 政輝、樋 惇紀、鈴木 収、二見 文貴、岡部 瑞穂、鹿沼 晴美、日岐 敏史
広報・広告	吉田 江里、池田 沙織、小玉 恵理奈、力石 彩夏、吉見 成彬
プログラム	赤地 直樹、太田和 温子